

平成18年度調布ゆうあい福祉公社ホームヘルパー養成研修

6月27日(火)

9時～12時

13時～16時

高齢者・障害者(児)等の心理
高齢者・障害者(児)等の家族の心理

koka@eft.gr.jp

<http://www.eft.gr.jp/>

岡部 耕典

今日のスケジュール

午 前 9時から12時まで

講義とビデオ
(途中で15分休憩)

午 後 13時から16時まで

ビデオと座談会
(途中で15分休憩)

自己紹介

岡部耕典 (おかべ こうすけ)

東京学芸大学非常勤講師(社会福祉援助技術)

社会福祉士

ホームヘルパー2級

障害児の親

居宅介護の利用契約者(保護者)

地域活動・自立生活センター

障害者運動・親の会の活動

最後までヘルパーになじめなかった父ノ一人暮らしの母

モットー： 支援者としての親

「障害者・児と高齢者」はなにが違う / 変わらない？

違うこと

- ・年齢
- ・ライフサイクル
- ・先天的・人生の早期or後天的

変わらないこと

- ・障害 = 支えられるべき「社会生活上の困難さ」があること
- ・個別性 = ひとりひとりの主観的世界と個性をもっていること

障害児・者と高齢者は、その人が支えられるべき障害の個別性の理解のため(のみ)において、区別されるべきである。

「(要介護)高齢者の心理」でよくいわれること

- ・流動性知能(短期記憶)と結晶性知能(長期記憶)
- ・喪失感(健康・収入・社会的立場・人間関係)

しかし、障害者でも、

- ・知的障害者は、認知障害をもつ。
- ・中途障害者は、多くの場合「喪失感」を体験している。

違いは絶対的なものというよりは相対的なもの

障害をもってからの期間の長い障害者のほうが(多くの場合は)「障害のプロ」であり、人生を長く生きている高齢者のほうが貯蓄・家族・住居等の「社会関係・生活基盤がしっかりしている」こと(が多い)。

「家族と当事者」は何が違う / 変わらない？

変わらないこと

- ・障 害 : 「支えられるべき社会生活上の困難さ」があること
- ・個別性 : ひとりひとりの主観的世界と自律性をもっていること

違うこと

- ・立場性 : (介護される)本人と(介護する)家族

家族と本人の利害は、一致し / 対立する。

支援者にとって、家族と当事者は、しばしば混同されやすいが、「異なる個性と異なる立場性と異なる利害をもつ」ことがはっきりと認識されていない。

支援の「依頼者」はだれか？

本人 ←-----→ 家族(保護者)

支援の「内容」はなにか？

本人支援 ←-----→ 家族支援

自立支援 ←-----→ 家族介護の補完

契約者・お金の払い手が家族であろうと、支援は、「本人・本人支援・自立支援」を基本とする(べき)。=「本人中心の支援」

「本人中心の支援」のために必要なことは？

まず必要なことは、「本人の指示に従う」ことである。

- ・支援の**内容**だけでなく**方法**もきちんと確認すること。
- ・支援していないときもきちんと**寄り添い・見守る**こと。
- ・言葉で表現されるものだけではない**意向を汲み取る**こと。

つまり、「指示に従う」ためには、「本人に対する**理解**」が必要。
ただしそれは...

- ・「理解」には、「心理」だけでなく「**生活**」の**理解**が大きな比重を占める。
- ・「理解」とは、本来**個別的・能動的**なものであり、「**共感**」により育まれる。

本人中心の支援の実際

「重度の障害をもつ女性の自立生活」

「知的障害をもつ男性の脱施設 / 自立生活」

「こーゆう生活がしたかったの」(ビデオ)

「(重度肢体不自由の)障害をもったひとりの女性の日常のドキュメント」

ポイント

「高齡者介護」とは、なにが違う / 違うくない？

「施設介護」とは、なにが違う / 違うくない？

「家族介護」とは、なにが違う / 違うくない？

「こーゆう生活がしたかったの」 なにが違う / 変わらない？

「保護」よりは、「自立」

「施設」よりは、「自分の生活」

「家族」(のかわり)よりは、(障害のある / ない)「仲間」

「喪失感」よりは、「希望」

基本的には、(障害の質というよりは)ライフサイクルの違い

象徴的なヘルパー像... 電動車イスの後ろをついてゆくヘルパー

「施設の外で暮らしたい」ビデオ

「知的障害者が施設を出て街で暮らす、ということ」

ポイント

知的障害者にとっての「脱施設・地域移行」ということ

「身体障害者の自立生活」とは、なにが違う / 違うくない？

「身体障害者に対する支援」とは、なにが違う / 違うくない？

「認知症高齢者」とは、なにが違う / 違うくない？

「家族」の語り

「施設の外で暮らしたい」 なにが違う / 変わらない？

「保護」ではなくて、「自立」

「施設」ではなくて、「自分の生活」

「家族」(のもとに戻る)のではなく、「仲間」(としてのヘルパー)をつくる

「安心」よりは、「自由」

ライフサイクルというよりは、「奪われた(あたりまえの)人生」の取り戻し

象徴的なヘルパー像...「カメラのフレームの外」にいる介護者

理解を支援につなげるために...
「りょうちゃんからのおてがみ」



ぼくのなまえは
岡部亮佑です。

武蔵野東小学校の
3年生です。

ぼくは生まれつき脳に障害があって、お話しすること、字をよんだり書いたりすることが苦手です。

苦手なことは他にもたくさんあって「危ないこと」や、「人の気持ち」や、「きれい」と「汚い」など、目に見えないことがよくわかりません。

顔や体に触られることや大声で話しかけられることも苦手です。

「人の気持ち」がわからなくて、ブランコに乗りたいと他の人のブランコを取って、しかられることもあります。



ぼくの家は、玄関に行くドアの中から鍵がついています。

ふつうは外から入らないように鍵をするのだけど、ぼくのうちは、ぼくが勝手に外に行かないように、中から鍵をかけるのです。

お母さんは、ぼくが外に行くと他の人に迷惑をかけたり、危ないことが多いので、「出かけないで。」と言ったり、ぼくが出かけるときはついてきて、いちいち注意したりします。



ぼくは絵を描くことや、ビデオも好きだけど、一日中、家にいるのは退屈だし、お母さんがうるさくて困っています。

僕は自転車で走ること、公園で遊ぶこと、プールで泳ぐこと、ディズニーランドに行くこと、飛行機で旅行することが好きです。

「中央線」がぼくのラッキーアイテムで、いつも持っています。遊ぶことが好きで、勉強が苦手。これはみんなと同じ気持ちかも。



ぼくが危ないこととか、迷惑なことをしていたら注意をしてください。

注意をしてもわからないようだったら、お母さんに電話してください。

ぼくがひとりで困っているときは、お手伝いしてくれるとうれしいです。

とってもふしぎなぼくだけど、どうぞよろしくお願いします。



りょうちゃんの「困難さ」

～特に「交通機関を利用する際」の～

知的障害児(特に自閉症児)は、一般的に...

見た目では(あまり)障害の有無がわからないこと、保護者自身が障害を受容・理解できていない場合も多く、周囲に障害について適切な説明が出来ず、困難が増すことが多い。

りょうちゃんの場合は、たとえば...

- 危険を理解できない。「止まれ」「危ない」「黄色い線の内側」など、制止や、禁止の言葉が理解できない。「こだわり」が強く、何度、注意しても言うことをきかない。
- ホームでは手をつないでいないと危険。「奇声」を発したり、ぐるぐる回ったり、奇妙な行動を取る。「多動」でじっとできない。

具体的には...

- **電車**・・・自分の好みの電車にこだわり、行き先に関係なく乗ろうとする。電車が入ってくるところを見たくて、線路に身を乗り出す。ぎりぎり、ホームの端を走る。
- **新幹線**・・・予約を理解できないので、目の前にある新幹線に乗ろうとする。好きな形の新幹線に乗りたがる。席を立て、歩き回る。最初はトイレの音が怖かった。
- **バス**・・・朝は父親が付き添い、帰りは母親か、週1～2回、ヘルパーがお迎えする状況では(介護者が)定期が買えなくて不便。
- **飛行機**・・・窓際の席にこだわる。チケットを買うとき「自閉症で、迷惑をかけるといけないので、窓際の席を3席続きで確保して欲しい。」という「発作はないか」とか「飛行機に乗った経験はあるか」と聞かれる。(発作があるうが、経験がなかるうが、こちらが配慮して欲しいと言わない限り、質問されるようなことではないと思うが...)

りょうちゃんが交通機関を利用するときの 「困難」とは？

・安全の確保

危険の予知

・切符の購入等

字が読めない・金銭の利用ができない

・周囲の「迷惑」

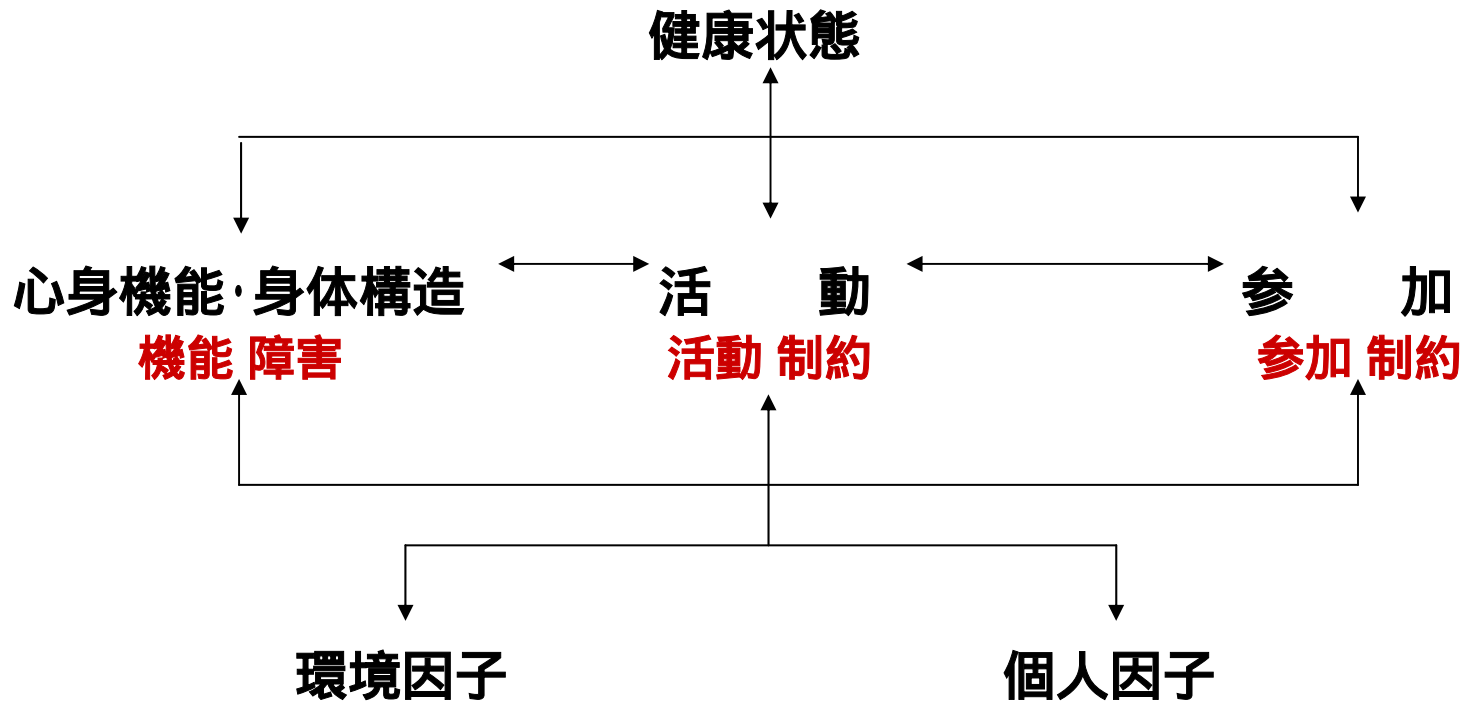
「奇声」・「多動」

・本人の満足の充実

「こだわり」

さまざまな「困難さ」をどのようにとらえ、りょうちゃんの「交通機関の利用」を支援していったらよいのか？

「障害」のモデル



ICF (国際生活機能分類) モデル (WHO 2001)

簡単にいえば...

「障害による生活の困難さ」は、体や精神の働きや体の構造そのもの(たとえば「自閉症」)からというよりは、生きていくためのさまざまな生活行為(たとえば「交通機関の利用」)ができなくなったり、その結果として、社会的な出来事に関与できなかったり役割を果たすことができなくなってしまうこと(たとえば「学校に通えない」)によって生じるものである。

その要因は、「心身の障害そのもの」という個人的因子と「社会の対応」という環境的因子の「どちらか」というよりは、その「あいだ」にある。

「生活支援とホームヘルパー」(ビデオ)

地域での「自立生活支援」を考える

ポイント

「生活支援(長時間滞在型介護)」とは？

家事援助や身体介護と同様に必要な生活支援とは？

「利用者への服従」「利用者の尊重」「利用者の指導」の違いとは？

「利用者や家族の心理の理解」が必要な理由とその方法について

「生活支援(長時間滞在型介護)」とは？

施設ではなく、家族との同居でもなく、**地域で自立生活**をおこなうためには、**利用者と生活を共にする長時間の介護**が必要。

「自立とは自律すること」であり、利用者の「**生き方**」と「**意思**」が尊重され、支援内容をヘルパー自身の価値判断とイニシアティブで決められてはならない。(「**いわれるまえにはやらない**」)

その一方で、ヘルパーは利用者と地域社会との「**接点**」となり、**積極的な関係調整**はおこなわれなくてはならない。

それは、断続的でヘルパー主体の「**する介護**」ではなく、利用者の日常生活に**寄り添い・見護り**、ヘルパーと利用者、利用者と地域社会との「**関係を紡ぐ介護**」である。

象徴的なヘルパー像：「**つかず・はなれず**」

自立生活支援の実際を考える座談会

つか わたし せいかつ ヘルパーを使った私の生活 わたし のぞ 私がヘルパーに望むこと

おと えつこ
尾登悦子さん

とうきょう だいひょう
ピープルファースト東京・代表

ささき のぶゆき
佐々木信行さん

とうきょう じむきょくちょう
ピープルファースト東京・事務局長

きょたくかいごしえんじぎょうしょ りじちょう
居宅介護支援事業所アシスト・理事長

まとめ

「高齢者・障害者(児)及びその家族の心理の理解」について...

ヘルパーにとって、それは、なんのために必要なのか？

ヘルパーとして、それは、どのようにおこなうべきものなのか？

高齢者・障害者(児)の支援とはなにか？